

JCHO 宮崎江南病院

認知症ケアマニュアル各論 Digest



地域包括ケア・連携委員会

認知症マニュアル部会編集

認知症ケアマニュアル各論 Digest (対処法編)

もの忘れ（記憶障害）に対して

- ・面倒がらない。叱らない。無理に訓練しようとしなない。丁寧に対応して強い信頼関係を作るように努める。
- ・メモを利用し、もの忘れを補う。大事なことは紙に書いて決まった場所に貼る。大判のノートに書いて目につきやすいところに置くように決める。

見当識障害について

時間の見当識：なじみのカレンダーをなじみの場所に貼って、毎朝一緒に○をつけ確認する。

場所の見当識：本人の思い出の品や使い慣れている家具などをもっていく。家族の協力が得られれば可能な限り付き添ってもらう。病気や怪我などによる入院も、混乱を引き起こす原因になる。

人の見当識：比較的早期から家族を見てもわからなくなり、子供が1人しかいないのに「もう一人息子がいる」などと言って周囲を驚かすことがある。その場合、すぐに否定したり説得しようとするとう混乱して怒りだしたり、パニックを起こすこともある。まずは本人の訴えをよく聞き、不安があればその軽減を図る。

失語・失認・失行

(失語) 長い言葉・文章を避け、簡単な言葉でゆっくり話しかける(ジェスチャー等を入れると尚良い)
1度で理解できないこともあるので、その場合は繰り返したり少し表現を変えたりという工夫も必要。

(失認) 周囲の人が支援すれば対象を正しく認識することができる。

(失行) 工程の数を減らし使い慣れた道具を使用する。難しい作業の場合は目印等を付け分かりやすく工夫する。

認知機能の変動

- ・1日のうちで調子の良い時間帯、悪い時間帯はだいたい定まっていることが多い。一般的に夕暮れ時はレビー小体型認知症の状態も悪くなりがちである。夕暮れ時は本人とゆっくりテレビをみたり音楽を聴いたりするなど、生活のパターンを組み直すと、上手く乗り切れる場合もあるので、その頃に家族に面会に来てもらうなども有効である。

不安に陥らないように安心感をもってもらう

興奮して暴れると、転倒や自分、周りを傷つける恐れがあるため、本人の話を受容し、まず興奮をなだめる幻覚は薬物治療によって改善することがあるので、専門医に相談する。

せん妄

挨拶と自己紹介を行い目の前の人間が敵ではない事を示す（笑顔で）

いきなり接近せず声をかけてこちらに注意が向いてから接近する

視線を同じ高さにする（上から見下ろさない）

優しくねぎらいの声をかける（大変でしたねーなど）

今現在の苦痛をできる範囲で緩和する

理由を聞き、相手が冷静に判断できる情報を提供する

無理に抑制しない

周りが慌てない

本人の話をよく聞く

うつ症状

この時に励ましたり叱咤すると余計に塞ぎこむので、孤立させないように家族のなかに入れたり、なじみの仲間の中に入れて話しかけたりする。

本人のできる範囲の手伝いなどを依頼して役割をもたせ、やり終えた後は感謝を伝える。

行動症状編

攻撃的・興奮・暴力

大声で静止したり叱ったりせずに、誤解や曲解していることがないか考える。

同じ事がある場合どんな状況であったかを考え静かに接し相手の目を見ながら優しく話しかける。

注意を他にそらし、自然に興奮・怒りが納まるように努める

徘徊

①直接止めると逆効果 ②よく話を聞き切迫した気持ちに共感する ③外出しないで済む用事に関心を向ける。

④徘徊に付き合う。一緒に散歩する ⑤行動を制止するのではなく一緒にひと回りして中に入ると落ち着くこともある。

不食・拒食、過食・異食

①患者の訴えをよく聞き受容して味方であるという信頼感を抱かせる ②1回の食事量を少なくし1日の食事回数を多くする ③「今ご飯の準備をしているから」などと声かけする ④「ご飯ができるまで散歩でもしましょう」などと気を紛らわせて対応する ⑤「今準備をしていますから、お茶でも飲んで待っていてください」と気をそらす

失禁や不潔行為

①トイレの場所がわからない場合は、ドアに「トイレ」と書いた紙や目印を貼る ②時間を決めてトイレに誘う・部屋にポータブルトイレを置く ③場合によってはオムツも考える ④心因性であれば、尿意があれば排尿の誘導をし、尿意がない場合は排尿パターンを把握し誘導する ⑤夜間失禁する場合は起こしてトイレ誘導を行う ⑥常に身の周りを清潔に保ち、本人の排泄パターンを知っておく

拒否

食事拒否：原因を考える 時間をずらす お皿の位置を変える

入浴拒否：気分の良い時を見て誘う 洗面器と固形石鹸とタオルを渡す 断られたら引き下がりしばらくして誘う

内服拒否：納得しやすい説明や薬の形を変えてもらいゼリーに混ぜこむ。一日一回にまとめられないか医師へ確認

心理症状編

意欲低下

認知症の人は、変化に対応する能力が低下するため、本人の生活をパターン化してあげる。規則正しい生活をするための日課表を作る。

洗面・歯磨き・食事・排泄・入浴・日帰り介護サービスへの参加など日課として行っていた生活習慣を、出来るだけ崩さないように努める。自分で出来ることは、見守りながらも出来るだけやってもらい、その都度「すっきりしましたね」などと声をかけ気持ちよさを再確認してもらう。

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症中期になると、それまで続けてきた趣味をやめてしまいがちである。どこが難しくやめてしまうのか、つまずきのポイントを探し、上手く介助しながら継続するか、似たようなもので代用する。

睡眠障害

生活のリズムをつけるように、昼間は散歩に出かけたり、自分のできる仕事をしてもらうなど、活発に動いてもらう。デイサービス・デイケアなど日帰りのサービスを利用し、レクリエーションやアクティビティで身体や頭を使うとよい。自宅では日中、なるべく横にならないようにしてもらう。

睡眠パターンには個人差があるためパターンを把握する。

妄想

否定しても逆に妄想が強くなることもある。相槌を打ちながら訴えを聞き、否定もせず、肯定もしない態度で接する。本人が得意としていたことに力を発揮してもらい、その人なりの役割を果たしているという自信を日頃から持ってもらう。物盗られ妄想などは、一緒に探してあげるとよい。たとえ、先に見つけても必ず本人に見つけさせるようにして対応し、見つかった後は気を紛らわすなどして気持ちを他に移す。

幻覚（幻視） 錯覚（錯視）

訴えを受け止め、頭から否定しないようにする

行動症状編

攻撃的・興奮・暴力

大声で静止したり叱ったりせずに、誤解や曲解していることがないか考える。

同じ事がある場合どんな状況であったかを考え静かに接し相手の目を見ながら優しく話しかける。

注意を他にそらし、自然に興奮・怒りが納まるように努める

徘徊

①直接止めると逆効果 ②よく話を聞き切迫した気持ちに共感する ③外出しないで済む用事に関心を向ける。

④徘徊に付き合う。一緒に散歩する ⑤行動を制止するのではなく一緒にひと回りして中に入ると落ち着くこともある。

不食・拒食、過食・異食

①患者の訴えをよく聞き受容して味方であるという信頼感を抱かせる ②1回の食事量を少なくし1日の食事回数を多くする ③「今ご飯の準備をしているから」などと声かけする ④「ご飯ができるまで散歩でもしましょう」などと気を紛らわせて対応する ⑤「今準備をしていますから、お茶でも飲んで待っていてください」と気をそらす

失禁や不潔行為

①トイレの場所がわからない場合は、ドアに「トイレ」と書いた紙や目印を貼る ②時間を決めてトイレに誘う・部屋にポータブルトイレを置く ③場合によってはオムツも考える ④心因性であれば、尿意があれば排尿の誘導をし、尿意がない場合は排尿パターンを把握し誘導する ⑤夜間失禁する場合は起こしてトイレ誘導を行う ⑥常に身の周りを清潔に保ち、本人の排泄パターンを知っておく

拒否

食事拒否：原因を考える 時間をずらす お皿の位置を変える

入浴拒否：気分の良い時を見て誘う 洗面器と固形石鹸とタオルを渡す 断られたら引き下がりしばらくして誘う

内服拒否：納得しやすい説明や薬の形を変えてもらいゼリーに混ぜこむ。一日一回にまとめられないか医師へ確認

心理症状編

意欲低下

認知症の人は、変化に対応する能力が低下するため、本人の生活をパターン化してあげる。規則正しい生活をするための日課表を作る。

洗面・歯磨き・食事・排泄・入浴・日帰り介護サービスへの参加など日課として行っていた生活習慣を、出来るだけ崩さないように努める。自分で出来ることは、見守りながらも出来るだけやってもらい、その都度「すっきりしましたね」などと声をかけ気持ちよさを再確認してもらう。

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症中期になると、それまで続けてきた趣味をやめてしまいがちである。どこが難しくやめてしまうのか、つまずきのポイントを探し、上手く介助しながら継続するか、似たようなもので代用する。

睡眠障害

生活のリズムをつけるように、昼間は散歩に出かけたり、自分のできる仕事をしてもらうなど、活発に動いてもらう。デイサービス・デイケアなど日帰りのサービスを利用し、レクリエーションやアクティビティで身体や頭を使うとよい。自宅では日中、なるべく横にならないようにしてもらう。

睡眠パターンには個人差があるためパターンを把握する。

妄想

否定しても逆に妄想が強くなることもある。相槌を打ちながら訴えを聞き、否定もせず、肯定もしない態度で接する。本人が得意としていたことに力を発揮してもらい、その人なりの役割を果たしているという自信を日頃から持ってもらう。物盗られ妄想などは、一緒に探してあげるとよい。たとえ、先に見つけても必ず本人に見つけさせるようにして対応し、見つかった後は気を紛らわすなどして気持ちを他に移す。

幻覚（幻視） 錯覚（錯視）

訴えを受け止め、頭から否定しないようにする

2016年3月25日
地域包括ケア・医療連携委員会
認知症ケアマニュアル作成部会編